

平成 25 年度 第3回知立市次世代育成支援対策推進協議会 会議録

日時：平成 25 年 2 月 26 日（水）

午後 14 時 00 分～

場所：知立市役所 第 1 会議室（3 階）

■委員出席者（計 12 名、敬称略・順不同）

蔭山 英順	鈴木 恭子	坂本 進	深谷 桂子	川合 大一郎
都築 和恵	服部 友彦	服部 悟	水谷 篤	山崎 敬司
清水 雅美	川合 基弘			

■委員欠席者（計 8 名）

杉浦 五一	野々山 和光	吉田 和子	日比野 恵満子	足立 鎮隆
野原 敏裕	石川 恵子	野村 典子		

■事務局（計 4 名）

【子ども課】	成瀬 達美	杉浦 辰己	水藤 真人	野々山 敏雄
【委託業者】	栗本 忠	都築 光		

■開会

（事務局）

皆さん、こんにちは。本日は、お忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。会議の前に、知立市審議会傍聴要領の規定に基づき、会議を公開させていただいております。傍聴人の方が入っておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、本日の会議に入る前に、お配りした委員名簿に沿って、欠席の方のご報告をさせていただきます。杉浦委員、野々山委員、吉田委員、日比野委員、足立委員、野原委員、石川委員、野村委員、この 8 名の委員の方については事前に欠席の連絡を受けておりますので、合わせてご了承いただきたいと思います。なお本日の会議は、過半数の出席ということで会議は成立となっております。また、医師会代表の深谷先生につきましては、仕事のため途中退席とさせていただきます。

それでは、ただいまから平成 25 年度第 3 回知立市次世代育成支援対策推進協議会を開催させていただきます。最初に蔭山会長より、ご挨拶をお願いいたします。

■会長あいさつ

（蔭山会長）

本日は、お集まりいただきありがとうございます。少し暖かくなり、過ごしやすくなったと感じております。この推進協議会は、次年度からは名称を変えて「子ども子育て会議」ということとなります。「次世代」の最後の会議になります。今後の計画を立てるにあたって、今回調査を実施し、その結果の報告を受けるということが主な内容となっておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

■委員紹介

(事務局)

ありがとうございました。次に、会議次第2委員の紹介ということで、ご紹介させていただきます。昨年の12月1日に民生・児童委員の一斉改選に伴い、3名の委員さんが変更になりましたので、ご紹介させていただきます。

まず、民生・児童委員代表の坂本進様、よろしくお願ひいたします。次に、本日は欠席されていますが主任児童委員の石川様、野村様が新しく委員として交代されましたので、よろしくお願ひいたします。

<資料確認>

(事務局)

では、次第の3協議事項に入らせていただきます。ここからは会長に進行をお願いします。

■協議事項

(蔭山会長)

それでは、協議事項(1)知立市子ども・子育て支援事業計画の策定に伴うアンケート調査結果について事務局よりお願いします。

(1) 知立市子ども・子育て支援事業計画の策定に伴うアンケート調査結果について

ア アンケート調査実施結果の概要について

<事務局より資料内容説明>

(蔭山会長)

ご説明ありがとうございます。何かご質問はありませんか。

ご質問がないようですので、内容の方に入りたいと思います。報告書についてご説明をお願いします。

イ アンケート調査報告書について

<コンサルより資料内容説明>

(蔭山会長)

今の報告について、何かご質問などはありますか。

では、私からお聞きします。4ページ(2)の未就学児童の棒グラフについて、無作為抽出による調査であるのに、なぜ0歳児だけ他の年齢の倍近くの回答数になっているのでしょうか。

(コンサル)

年齢を換算する際に、調査票には平成何年何月生まれを記入していただいています。その結果を元に、4月を起点として何歳かを計算していきますので、0歳児はどうしても2年分の子どもさんの結果が含まれます。そのため、回答数も多くなってしまいます。

(蔭山会長)

全体の意見を聞かねばならないのに、0歳児のウェイトが大きくなった結果になってしまふということですね。

(コンサル)

年齢換算の関係でそうなってしまいますが、対象者としては全て同じ割合になっています。

(蔭山会長)

わかりました。もう1点質問させていただきます。32ページの(41)について、その他の理由が一番多くなっていますが、この内容はこういったものですか。

(コンサル)

その他の内容や、アンケートの最後にある子育てについての自由記述欄の内容については、現在集計中ですので、また改めてご報告したいと思います。

(蔭山会長)

その他の回答がこれだけ多いと、そもそもの選択肢の内容が良くなかったのかとなりますね。

(川合委員)

38 ページの (47) について、グラフの三つめに「放課後子ども教室」という項目があります。今現在、「放課後子ども教室」は市内の小学校すべてに設置してあり、小学校 1～6 年生までが対象です。回答では、未就学の親御さんの通わせたいという希望が非常に高いですが、小学校の親が小学校の子どもたちについて分かっているここに通わせたいというのは理解できますが、未就学の親の希望が高いというのは不思議ですね。ありがたいことですが、その背景のようなものは分かりませんか。「放課後児童クラブ」に比べても、未就学の親が過ごさせたい希望が多いですよ。

(蔭山会長)

未就学の親は「放課後子ども教室」に期待しているという結果ではないでしょうか。ニーズがあるのではないですか。

(コンサル)

市内で子育てをされている親の中で、いい評判が広がっているということも考えられます。いいイメージで浸透しているということは読み取れます。

(蔭山会長)

知立市は「放課後子ども教室」を早くに始めて歴史がありますから、意外と浸透しているのかもしれないですね。

(鈴木委員)

気になったところが 2 点あります。1 点目は 41 ページの設問 (51) について、回答の選択肢にあるファミリーサポート・センターのパーセンテージが低いのですが、利用者から使い勝手が悪いという声が聞こえてきています。

2 点目は、お母さんが病後のお子さんがいるために仕事を休まざるを得ないのは、知立市には病後の保育施設が 1 カ所しかないということが挙げられます。このようにアンケート結果の背景にある実態を理解しておかないといけないと思います。

(事務局)

ファミリーサポート・センターにつきましては、市役所が利用者側とサービスを提供する側とを取り持っています。使い勝手が悪いというのは、6 時半に「放課後児童クラブ」が終わった後に頼まれる方の希望が多いのではないかと思います。そうすると時間帯が遅いので引き受け手が少ないという想像ができます。要望はありますが、サポートする側が少ないのだらうと思われます。宣伝はしていますが、サポートする側の人を集めるのは難しい面があります。

病児・病後児については、栄クリニックさんをお願いをしています。満員になるということはないため、PR 不足なのか、施設数を増やす方がいいのか、検討に値すると思います。施設がないわけではないので、その活用方法について工夫が必要ではないかと思います。

(蔭山会長)

1 カ所というと、施設から遠いところに住んでいる人は利用しにくいですね。そこがあふ

れるというのも問題ですが、あふれていないからといってニーズがないわけではないと思います。満杯ではないから、1カ所でいいというわけではありません。病児・病後児を遠くへ連れていくわけには行かないですから、地理的条件も重要です。

(事務局)

この件に関しては、色々ご意見をいただきながら、検討していきたいと思います。

(都築委員)

41 ページ (50) 「放課後児童クラブ」に希望することについて、複数回答だからかもしれませんが、ハードウェアとソフトウェアの両方に改善を期待しているということが気になります。市としては、詳しい意見の内容は聞いていらっしゃいますか。

「放課後児童クラブ」の利用登録者数は定員を超えています、実際の利用数はやや少ないということもあり、もう少し定員を増やした方がいいのかと思います。

また、「利用時間を延長してほしい」という希望も多いのですが、「(51) 放課後の時間をどのような場所で過ごさせたいですか」の設問の回答を見ると「自宅で過ごさせたい」「習い事をさせたい」という希望が多く、「放課後児童クラブ」は希望が少なくなっている、矛盾を感じ、理解に苦しみます。保護者の気持ちについては、個々に調べるよりも全体的に分析していった方がいいのか悩んでいるところです。

(蔭山会長)

私から、もう1点お聞きします。ポルトガル語での調査は、就学・未就学合わせて55件でしたが、この数も含めて分析をしていますか。知立市在住の外国人がどういう意向を持っているかを知ることは、今後の施策のためにとっても大切です。数は少ないですが、この55件分だけ抜き出して、日本人と同じなのか、そうではないのかを集計してはと思います。55人もアンケートに協力してくれているので、生かしていきたいですね。

(事務局)

一度、数字を出してみたいと思います。

(蔭山会長)

この調査が、色々な計画を立てていくためのデータになるのですが、そのプランニングについては色々ところで展開をしていくことになります。もう少し積極的な意見や希望が見えるかと思ったのですが、意外とニーズがない、弱いということを感じますね。回答できた人の層の問題なのかもしれませんが、本当にお困りの方はアンケートどころではないと思います。そういう点で少し心配はありますが、調査は調査として行っていきたいと思います。小学校については画期的な悉皆調査ということで校長会を中心にご協力いただき、とても良かったと思います。おかげで小学生の姿がサンプリングよりももっとうまく描けたのではないかと思います。

(2) その他

(服部委員)

今回は、アンケートをとって声を聞いたわけですが、子ども課に直接相談に来られる人はよくいるのでしょうか。

(事務局)

学童など、今の制度についての問い合わせはたまにはありますが、こういうことをしているのかという質問や、こういうことをやって欲しいという要望を言いに来られる人は、ほとんどいません。

(服部委員)

先ほど会長さんがおっしゃられたように、このアンケートはある程度時間があって回答できる方が回答していると思います。時間がなく、面倒だと思われる方は生活に追われてアンケートに答えられない、そうすると本当に子育てで困っているというような逼迫した問題がある場合、直接訴えに来られた場合にしか、市民の方の困り事に気づくことができないのではないのでしょうか。このアンケートで声を拾えない方がたくさんいると思います。

今、学校から子どもたちを見ると貧困家庭、家庭のない家が多いような実感があります。新聞によると、親から子へそのような環境の連鎖もあるそうです。支援してほしい方に支援を届けるにはどうすればいいのか、アンケートも重要ですが、市民の声を聞ける場があるのか、実際に「助けてください」と来られる方もいらっしゃるのかという思いで質問をしました。

(事務局)

児童センターや支援センターはありますので、そういう中でご相談があり、色々お話をする中で既存の制度をご紹介しますという対応はしています。

一例を挙げますと、今回小学校1年生に上がられるお子さんがいる母子家庭の方が相談に来られました。お子さんはバギーカーで寝たきりなのですが、学校には行けるので「放課後児童クラブ」も利用できないかと要望がありました。スロープを付けるなど色々しなければいけない問題もありましたが、市の制度では医療行為のない児童については引き受けるとなっていましたし、やれるだけなんとかしていこうと検討していました。結局、児童の支援をするデイサービスが市内にあり、送り迎えの都合もいいということでそちらを利用されることになりました。

なんでも杓子定規でできないというわけではなく、市でもやれる範囲で現場で対応しているということがあります。制度として全くない要望が出てきた場合に、どうしていくかということが今後の課題になるかと思えます。

(服部委員)

今ある施設や設備、環境を市民に広く周知し、相談に来られた方に紹介するというのとはできる範囲だと思います。それに加えて、内容を充実させることと、支援を拡大していくことの両面がもっと必要になると思います。

家庭の様子を、子ども自身、または保護者から知ることができる場の一つが学校だと思います。学校は保護者と年に1～3回は懇談をしていますので、その際にそのような話を聞くことがあった場合、子ども課さんに相談すればいいのですか。

(事務局)

子ども課か、支援センターや児童センターに相談いただければと思います。関係機関とは交流をさせていただいていますし、先生方からお問い合わせもいただくことがあります。より一層連絡を密にして、状況把握をしていきたいと思えます。

(服部委員)

第3者からその家庭をみることで、援助の糸口につながれば一番いいかと思えます。今後、連携を密にして、色々ご相談させていただく機会もあろうかと思えますので、よろしくお願いします。

(蔭山会長)

この調査自体は、量的なニーズの把握ですよ。ところが、やはり市民のニーズから言えば、量は多くなくても耳を傾けないと聞けない声があるということを見落としてはいけないと思います。そういう点からいくと先ほど質問によっては、その他の回答が一番多いのが問

題と言いましたが、それ意外の少数のその他の意見の中に重要な意見がある可能性があるように思います。今回の調査では、その他の回答の価値をなくさないために、捨てるものは捨てていただきたいと思います。お一人でもご意見があったということは、施策を考えていく上では大事な点になるかもしれません。まだ、その他の中身を見ていないので何とも言えませんが、せっかく調査を生かすためにも、そのあたりを大事に見ていただくことをお願いいたします。

では、他にご意見などはございますか。特にないようでしたら、事務局へお返しいたしますので、お願いします。

(事務局)

冒頭でもお話しましたが、「子ども子育て会議」についてご説明いたします。「次世代育成支援対策推進協議会」でも問題ないのではないかとのご意見もいただきました。実際に合議制の機能を持っておりますので、法的には違反することはないのですが、時代の流れもあり「子ども子育て」という言葉の方が、広く理解していただきやすいのではないかと考えました。3月議会で、協議会の名前を「子ども子育て会議」と改称させていただきたいと思っております。

今後の日程ですが、アンケート結果の集計を3月に県に報告いたします。今後は、この数値を使い、勤務時間帯、お子さんが保育園に行っている、将来保育園に行きたいなど、色々な面から需要の見込みを立ててまいります。需要の見込みがまとまりましたら、方策を立てるために色々ご審議いただき、計画としてまとめまして早く今年12月、遅く来年の3月の議会に計画を提出し、議決をいただくという手筈になっております。

(蔭山会長)

名称の変更に伴い、考え方やねらいなど中身も変わるのでしょうか。

(事務局)

大筋は同じです。次世代の組織を使って「子ども子育て会議」をするということです。条例では「子ども子育て会議」が全面に出てくるということになりますが、大きくは変わりません。

(蔭山会長)

他に何かございませんか。

(事務局)

「次世代育成支援対策推進協議会」について、皆さんの委員の任期が今年度の3月31日までになっております。条例を改正して「子ども子育て会議」という名称に変更し、新たに委員の方を選任させていただきたいと思っております。引き続きお願いさせていただく方には通知を出しますので、引き受けていただきますようお願いいたします。また、メンバーも少し変えさせていただきます。以前、会長からもお話がありましたように、保護者の方も増やし、一般公募の方にも入っていただきたいと思いますので、よろしくようお願いいたします。

■閉会

(蔭山会長)

他にご意見はございませんか。ご意見がなければ、これで会を閉じたいと思います。お疲れ様でした。

以上